

## 1 過酷な生息環境

十和田湖を取り囲む斜面からはほとんど栄養素が流れ込んでこないため、生息できるプランクトンの数は限られています。よって湖に自生する魚の種類も限られていますが、アメマス、ヒメマス、コイなど、複数の品種が移入されています。今日その数は約 20 品種に上ります。冬にはキンクロハジロ、ホオジロガモ、カワアイサをはじめとする水鳥が訪れますが、湖の大きさと比べると、その数は決して多いとは言えません。

## 2 カルデラ壁の植物

十和田湖に見られる植物や地形は、季節ごとに大きな変化を遂げます。湖の大部分をブナの自然林が囲んでいますが、御倉半島、中山半島にはミズナラが自生しています。さらに、カエデやクロマツ、その他様々な広葉樹林が広く生息しています。

## 3 十和田湖の構造

十和田湖は二重カルデラ湖です。主要部の浅い盆地（外輪カルデラ）と深い盆地（内輪カルデラ）を観察することで、それをうかがい知ることができます。約 4 千年前に誕生した御門石と呼ばれる寄生火山は、その頂が湖面から顔を出しています。

## 4 湖底の地形

湖水盆地の水深はほとんどの場所で約 100 メートルです、最も深い中湖カルデラの中心部では、約 327 メートルです。